

令和3年度 名古屋大学心の発達支援研究実践センター 心理発達相談室活動報告

心理発達相談室は、臨床心理士養成大学院の一種指定校および、平成30年度より公認心理師の養成大学院として、院生の訓練機関であると同時に、心理臨床活動を通して地域社会に貢献することを目的としている。

近年、心の問題はいたるところで取り上げられている。臨床実践を取り巻く環境や求められるニーズも多様化しており、後述するが、心理発達相談室が扱う相談内容も多岐に渡る。また令和3年度は、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、従来とは異なる対応を求められることとなった。このような現状の中、感染対策と臨床活動をいかに両立し、地域社会への貢献と臨床訓練を積み重ねていくかは極めて重要な課題である。

I 相談員の構成

令和3年度の当相談室の人的構成は、教員13名、指導員33名、相談員1名、大学院生40名、事務職員3名の総勢90名である。室長は、田附准教授が務めた。令和3年度の相談室スタッフの名簿を表6に示す。

II 相談活動

1. 新型コロナウイルス感染症対策

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、面接時間を従来より5分短い45分とすること、面接後の消毒や面接中・面接後の換気を徹底すること、来談者・スタッフともに来学前の検温を行い、少しでも体調に不安がある場合には来学を控えることなど、感染症対策を徹底した上で、相談活動を実施した。また、来談者・スタッフに陽性者・濃厚接触者等が発生した場合には、対応マニュアルに沿って、スタッフの相談室活動

の休止等の対応をとった。

2. 令和3年度新規相談受理件数

令和3年度の新規受理面接数は70件であった(表1)。令和2年度の68件と同程度の件数であったが、新型コロナウイルス感染症拡大前と比べると、30件程度減少している。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による新規受付停止期間はなかったが、プレイルーム1の改修工事のため相談室を臨時閉室とした期間があったことの影響がうかがえる。

相談内容別の受理面接数を表2と表3に示す。12歳以前では、発達障害が10件(34%)、情緒障害が19件(66%)であり、本年度は発達障害・情緒障害ともに、件数は前年と同程度であった。13歳以降の相談では、親の相談15件(37%)、対人関係9件(22%)の順で割合が多かった。前年に比べ、対人関係の割合が増加していることから、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で自宅にいる時間が多かった前年とは異なり、自宅から出る機会が増えたことで、社会生活に対する相談が増加していることが本年度の特徴の一つといえる。

3. 令和2年度面接種別相談件数

令和3年度の面接種別相談件数を表4に示す。年間の相談件数の総数は2,803回であり、令和2年度の2,411回より400件程度増加した。その要因として、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着く時期もあったことや、感染対策をしながらの相談環境が整ったことにより、新型コロナウイルスの影響が緩和されたことが考えられる。

面接種別では、令和2年度とは異なり、「臨床心理面接」が最も多く、969回であった。次いで「並行心理面接」、「遊戯面接」の順に多く、例年と同様であった。現在、「集

表1 受理面接ケースの年齢、性別

性別／(年齢)	乳幼児 (0～3)	就学前 (4～6)	小学生 (7～12)	中学生 (13～15)	高校生 (16～18)	大学生・成人 (19～)	計 (%)	自死遺族 カウンセリング	震災による 心のケア
男	1	4	10	2	5	6	28 (40)	0	
女	1	3	9	5	0	24	42 (60)	0	0
計 (%)	2	7	19	7	5	30	70 (100)	0	0
	28 (40)			42 (60)					

表2 12歳以前の相談内容別受理面接数

診断(主症状)	件数(%)
発達障害	10 (34)
自閉スペクトラム症	6
知的発達症	0
注意欠如・多動症	3
限局性学習症	1
情緒障害	19 (66)
親子間の問題	4
不登校	2
不安症(選択性緘黙、神経性習癖等)	3
集団適応・友人関係	7
虐待	0
その他	3
計	29 (100)

表3 13歳以降の相談内容別受理面接数

相談内容	件数(%)
パーソナリティ障害	0 (0)
神経発達症	3 (7)
対人関係	9 (22)
不安症(心的外傷後ストレス障害、選択性緘黙、強迫症等)	3 (7)
抑うつ障害	4 (10)
思春期・アイデンティティ	1 (2)
統合失調症	0 (0)
不登校	1 (2)
夫婦関係	0 (0)
摂食障害	0 (0)
親の相談	15 (37)
精神障害	0
神経発達症	5
子どもの不登校	2
親子関係	5
その他	3
その他	5 (13)
計	41 (100)

困心理面接」では、平成21年度から始まった発達障害児を持つ両親を対象としたペアレントトレーニングを実施しており、本年度は65回で、前年度より大きく増加し、新型コロナウイルス感染症拡大前の件数とほぼ同程度となった。

月別の相談件数の推移を見ると、最も面接数が多いのは3月であり、最も少ないのは8月であった。8月はプレイルーム1の改修工事のため、13日から臨時閉室をしており、その影響がうかがえる。年間を通して、「臨床心理面接」「並行心理面接」「遊戯面接」すべてにおいて30～100回程度とかなりのばらつきがみられた。

名古屋市の委託事業として実施している自死遺族カウンセリングの新規受理面接数は0件であった。

Ⅲ 研究活動

当相談室の研究活動としては、リサーチ会議、各種研究会の開催、相談室紀要の刊行が挙げられる。相談室スタッフによる国内外における学会発表や学会誌への投稿も積極的に行われている。

令和3年度のリサーチ会議の内容を表5に示す。令和3年度は、外部講師による講義が2回、学内の教員による講義が1回オンラインで行われた。本年度は外部からの講師が多く、様々な研究領域や臨床活動について知ることのできる有意義な機会となった。今後もリサーチ会議の場を、スタッフの研究活動や臨床実践の活性化に役立つ場としていきたい。その他院生が主体となった勉強会や各研究会活動も感染対策を取りながら行われた。

年1回発行している相談室紀要では、令和3年度は2編の事例論文が掲載され、相談室活動を通しての研究実践報告が行われた。

学外での相互研鑽の機会として、令和3年度は「五大

表4 令和3年度 面接種別相談件数一覧

	令和3年					令和4年							合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
受理面接	8	2	7	9	2	3	6	10	5	3	4	11	70
ガイダンス面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査面接	1	2	0	3	2	1	0	0	1	3	2	1	16
遊戯面接	73	58	84	72	28	41	70	66	72	63	54	96	777
臨床心理面接	76	67	74	73	34	79	99	96	105	70	86	110	969
並行心理面接	68	62	79	77	34	50	79	76	84	78	63	110	860
集団心理面接	0	3	13	11	4	12	8	7	7	0	0	0	65
家族合同面接	6	5	5	6	3	3	5	3	3	3	2	2	46
計	232	199	262	251	107	189	267	258	277	220	211	330	2803
自死遺族カウンセリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
震災による心のケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表5 令和3年度 心理発達相談室リサーチ会議

	演 者 (所 属)	題 目
第1回 (2021年6月3日)	仲倉高広先生 (京都橋大学)	実践で心理臨床家が悩むとき
第2回 (2021年10月14日)	長島渉先生 (名古屋大学 総合保健体育科学センター)	精神科コンサルテーション・リエゾン
第3回 (2022年2月10日)	千葉友里香先生 (帝塚山学院大学)	箱庭療法の体験と理解

学合同事例検討会」が開催された。これは、心理相談室をもつ国立大学のうち、東大、京大、広大、九大、および名大の五大学の大学院生が主体となって開催するものである。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となったが、令和3年度は名古屋大学が主幹校となり、10月にオンラインにて開催された。オンラインのため、従来通りの事例検討会は難しいと判断し、架空事例による事例検討会が開かれた。オンラインでの実施は初めての試みであったが、本校の大学院生を始め、五大学の大学院生が意見を出し合いながら、困難な状況下でも、それぞれの大学からの参加者と臨床実践についての活発な意見交換の場を設けることができたのは特筆すべき点である。

Ⅳ 教育・訓練体制

当相談室の教育・訓練体制の中心は木曜日の午前中に行われるケース会議である。ケース会議では、例年、新規に受付した事例に関する報告や諸連絡事項の伝達を行う全体会の後に、5分科会に分かれて約2時間をかけてケース検討を行っている。ケース会議は、臨床心理士養成課程の「心理臨床研究実習Ⅰ」として位置づけられており、相談室の運営とケースの担当およびそのスーパーヴィジョンを受けることも含まれている。

スーパーヴィジョン制度は、ケース会議と並んで、相談活動の技量を高めるために大きな役割を果たしている。新規スタッフは、当相談室教員を特定のスーパーヴィザーとし、初年度の臨床実践指導を受けることが必須となっている。その他の大学院生スタッフは、ケースごとに教員や指導員、あるいは学外の臨床家によるスーパーヴィジョンを受けている。

相談室以外の教育訓練の場である実習については、医療領域、教育領域、産業領域、司法領域、福祉領域と幅広く充実した体制がとられている。これらは、平成30年度より、公認心理師の養成課程の一つである「心理実践実習」においても、単位として位置づけられており、相談室内外の実践の場がより重要な教育訓練の場となっている。

加えて、平成23年度から臨床心理士養成課程における大学院のカリキュラムが改訂され、前期課程1年の院生向けの講義を統合した「臨床心理学研究Ⅰ」「臨床心理学研究Ⅲ」がスタートしている。電話受付ガイダンスもこの講義の中に位置づけられている。

平成24年度から、相談室運営実習として、受付事務、資料整理、電話対応など、さまざまな相談室運営に関わる活動を体験する実習を実施している。

また、近年社会的にも重要視される個人情報の保護に関しては、平成25年4月の相談室ガイダンスから、個人情報保護に関する研修会が行われている。

Ⅴ 相談室運営

当相談室は、教員から構成される相談室運営委員会、および教員（相談室長・臨床助手）と大学院生の各学年代表および各係代表から構成されるスタッフ委員会を組織し、相談室活動全般の企画運営を行っている。いずれも毎月1回の定例会を開催し、意見交換を行うとともに、相談室の諸問題を検討する場としている。その他にもスタッフ全員が参加するスタッフミーティング（定例では7月と3月の年2回）を開催して、円滑な相談室運営やスタッフ間の情報共有を心がけ、全構成員による運営を実現するよう努力している。

(文責：小島朱理)

表6 令和3年度 心理発達相談室スタッフ

教 員	田附 絃平(相談室長)						
	松本 真理子	・	金井 篤子	・	平石 賢二		
	河野 莊子	・	永田 雅子	・	金子 一史		
	狐塚 貴博	・	野村 あすか	・	野邑 健二		
	横山 佳奈	・	井手 しほり	・	小島 朱理		
指 導 員	五十嵐 哲也	・	石川 雅健	・	井手原 千恵		
	今村 友木子	・	大崎 園生	・	織田 万美子		
	葛 文綺	・	加藤 大樹	・	加藤 容子		
	川瀬 正裕	・	清瀧 裕子	・	工藤 晋平		
	窪田 由紀	・	後藤 秀爾	・	小林 佐知子		
	三後 美紀	・	杉岡 正典	・	鈴木 健一		
	瀬地山 葉矢	・	千賀 則史	・	高橋 靖子		
	田畑 治	・	坪井 裕子	・	長島 渉		
	西出 隆紀	・	西出 弓枝	・	古橋 忠晃		
	堀 美和子	・	松本 寿弥	・	丸山 宏樹		
	森田 美弥子	・	山内 星子	・	山口 智子		
	相 談 員	三谷 真優					
		大学院生DC	伊藤 拓	・	酒井 麻紀子	・	鶴田 裕子
			深谷 麻未	・	古橋 健悟	・	金井 志保
松浦 渉			・	茂蒨 梓沙	・	金沢 直輝	
川浦 千明	・		清水 溪介	・	村瀬 凜		
大学院生MC	浅野 裕司	・	木村 悠人	・	鈴木 絵理奈		
	占 詩苑	・	田中 葵	・	出口 愛		
	花井 彩乃	・	藤野 京華	・	本田 奈々子		
	牧野 裕也	・	水谷 真梨子	・	水野 加菜		
	村田 千代栄	・	吉田 奈央	・	脇本 美紗		
	飯田 陽奈	・	石神 愛海	・	樺山 絵美		
	鈴木 亜美	・	高木 郁香	・	田中 俊輔		
	中村 和音	・	永井 颯	・	古井 遥		
	本田 碧衣	・	松隈 快	・	松本 有希保		
	山辺 史織						
	受 付	小笠原 順子 ・ 長谷川 千里 ・ 原 雅子					